

京都の秋に 照らし出された、 空海の美。

東芝のLEDが、東寺の「立体曼荼羅」と「薬師三尊・十二神将」をライトアップ。

東芝は照明事業 125 周年記念プロジェクトの一環として、コンパクトさと色の再現性に優れ、きめ細やかな微調光性を合わせもつ専用のハロゲン電球形 LED 電球で、世界遺産真言宗総本山東寺(教王護国寺)の「立体曼荼羅」と「薬師三尊・十二神将」のライトアップを手掛けました。この特別設計された東芝の LED は、仏像一体一体の精巧に創作された造形のみならず、仏像ごとに醸し出す表情、色彩の美しさを、暗闇の中に繊細な光で浮かび上がらせ、崇高な空間をつくり上げています。



照明事業125周年
記念モデル

- LED電球ハロゲン電球形
調光器対応(専用開発品)
- 平均演色評価数Ra95、
相関色温度2700K、
消費電力6.9w
- GaN(窒化ガリウム)パワーデバイ
ス搭載により小形化と優れた
調光性能を両立



立体曼荼羅(講堂)

大日如来を中心とした五智如来を白亜の壇上の中央に据え、五菩薩、五明王、四天王、梵天・帝釈天が取り囲む。全体構想は空海によるものとされ、21軀の仏像により構成。そのうち国宝15軀は日本最古の本格的な密教彫像である。



薬師三尊像・十二神将像(金堂)

金堂本尊である薬師三尊像は、桃山時代の大仏師康生の作。中尊の薬師如来座像は台座と光背を含めた総高が10mに達する巨像であり、台座装懸下には十二支の動物を頭部に付けた薬師如来を守護する十二神将像が配置されている。